

講義名	国文学			授業形態	
担当教員	小笠原 愛子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

平安時代の物語である『源氏物語』を扱います。平安時代は和風の文化が一つの完成を見た時代であり、そのような時代に書かれた物語を読むことは、日本語を使う私たちにとって、大いに意義のあることでしょう。また、『源氏物語』は、それ自体が優れた文学であるだけでなく、日本と中国の文学や歴史・文化を継承し、後世の文学・文化にも多大な影響を与えてきた、豊かな広がりを持つ作品です。読む人の個性に応じて、様々な学びや楽しみをもたらしてくれるでしょう。

到達目標

平安時代の物語作品を読むことを通じて、日本の文学と歴史・文化について知り、人間や人生について考えを深めることを到達目標とします。

提出課題

授業中に指示した小テストや、ふりかえりテストのための勉強など（範囲は授業中に指示します）。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内で解説を行い、解答を提示します。

評価の基準

授業時の小テスト30% / まとめのテスト70%

履修にあたっての注意・助言他

平安時代の物語を扱いますが、資料には現代語訳や語句の解説を付し、人物・場面の描写や筋立て等について、日本と中国の古典文学や文化・歴史等との関わりの中で考察していきますので、古典文学や古文単語が身についていなくても理解できます。「物語」や「お話」が好きな人、日本と中国の古い時代の文化に興味がある人には楽しんでいただけると思います。

教科書	.使用しない.				
-----	---------	--	--	--	--

参考図書	.なし.				
------	------	--	--	--	--

その他	教科書は指定せず、授業中に資料を配付します。また、参考文献も「なし」としましたが、平安時代の物語や、中国の志怪小説・唐伝奇小説については、現代語訳や漫画・小説など、楽しめる書籍がたくさん出版されています。特に『源氏物語』については、現代語訳だけでも非常に多くの種類があり、小説や漫画にも優れた物がたくさんあります。気に入る作品がきっと見つかると思いますので、是非本屋さんや図書館で探してみてください。
-----	--

授業計画

- 1 はじめに：平安時代の「物語」について
- 2 『源氏物語』 「桐壺」巻 摂関期の帝と后妃達
- 3 『源氏物語』 「桐壺」巻 帝王の寵妃の悲劇 「長恨歌」とのかかわり
- 4 『源氏物語』 「桐壺」巻 母の罪業と皇子の超人性
- 5 『源氏物語』 「桐壺」巻 「雨夜の高定め」
- 6 『源氏物語』 「夕顔」巻 白く夢い謎の美女 「任氏伝」とのかかわり
- 7 『源氏物語』 「夕顔」巻 藤原の佳妻（女の愛）
- 8 これまでの振り返り とまとめの小テスト
- 9 『源氏物語』 「桐壺」巻 「若紫」巻 「紫のゆかり」の物語（「よく似た人」という設定）
- 10 『源氏物語』 「若紫」巻 『伊勢物語』 『古今和歌集』との関係（男が異世界で二人の女に出会う話）
- 11 『源氏物語』 「若紫」巻 北山の美少女（年敵の設定）
- 12 『源氏物語』 における予言と光源氏の子も達
- 13 光源氏の罪と栄華
- 14 栄華の絶頂で訪れる罪の報いと、続編への展開
- 15 おわりに： これまでの振り返り とまとめの小テスト

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：前回授業で提示した資料に目を通し、小テストについて確認しておく。
復習：授業中に扱った資料や小テストを見直す。（2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

古典文学作品を読むことを通して人間と文化について考えることにより、自他と向き合い理解するための教養を育むことができます。そしてそのような教養は、自立した大人として、「真に豊かな社会」を思い描き、その実現に貢献するために必要なものです。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

授業中の小テストやまとめの小テストによって成績を評価します。